

# 日本保育者養成教育学会 ニュースレター ■第2号■

The Japanese Society for the Study on Hoikusha Education

2019年6月5日発行 編集・発行 日本保育者養成教育学会

170-0002 東京都豊島区巢鴨1丁目24-1-4F(株)ガリレオ 学会業務情報化センター内

---

## 巻頭言

日本保育者養成教育学会 会長 小川清美 (大妻女子大学)

---

全国保育士養成協議会を母体として誕生したこの学会も少し成長し、研究大会を3回開催し、昨年度は初めて地方(仙台)での開催が実現できました。会員も増え、1,000人以上になりました。研究大会には約半数の方が参加しています。学会の活動は主に研究大会と『保育者養成教育研究』誌発行です。これも第3号が発刊されます。査読があり、現在は投稿論文の全てを掲載することはできません。けれども論文数が増加すれば、『研究』誌を1年に2回、発刊することも可能でしょう。会員の研究の公開の場として、研究大会も『研究』誌も大いに活用してほしいと考えています。

学会の始まりから4年目を迎え、この学会の目的である「保育者養成教育学」とは何ぞや？というテーマについてさらに追及していかなければなりません。「教育学」のなかに「養成」があるために「養成学会」では学術団体として認められないので、「養成教育学会」としななければならなかったわけですが、改めてその意味を考え、具体的に一つ一つの研究例を挙げて、深めていく必要があります。

今年の10月から保育・幼児教育の無償化が始まります。保育の質の担保を全く考えずに無償化だけが先に決まってしまいました。イギリスのように無償化と保育の質の担保がセットで決まればよかったのですが、そのようにはなりません。保育の質の担保については、保育者養成に携わっている私たちが自主的に動くことができるはず。保育者養成をした人たちが、実際に保育現場に出ていくのです。そこでできることをすすめませんか？

この学会は、保育現場の保育者の方も会員です。保育現場の中からも保育の質の担保のためにできることを進めていくことが大切だと思います。

次回の大会は、広島県福山市で開催されます。皆様で参加し、研究を発表し、考えを交換する機会としたいと思います。

---

## 日本保育者養成教育学会 第3回研究大会報告

第3回研究大会 実行委員長 和田明人(東北福祉大学)

---

2019年3月2日(土)に宮城県仙台市の東北福祉大学仙台駅東口キャンパスにおきまして、日本保育者養成教育学会第3回研究大会が開催されました。

学会企画シンポジウムでは「保育者養成教育学の構築に向けて」をテーマに掲げ、梶島香代先生の司会のもとで、東義也先生・久保健太先生・日景恭子先生より保育者養成教育に関する理論的・実践的な話題提供をいただき、多様な視点から保育者養成教育学の構築に向けた活性的論議が展開されました。

また、参加者は会員336名、非会員71名、研究発表は口頭発表が36件、ポスター発表が125件と、たくさんの方々よりご参会賜りました。

口頭発表・ポスター発表等の各会場では、保育者養成教育のあるべき姿を探求し続けておられる保育者養成校教員や保育実践者・研究者からの多種多様な研究発表と参加者相互の自由かつ闊達な討議が盛んに行われておりましたので、保育者養成教育学の構築に向けた明るい地平が見え始めたように存じております。

手狭な会場のため、なにかとご不便やご苦勞をおかけしたかとは存じますが、大きな混乱や問題発生等はなく、無事に終了することができました。あらためまして、ご参会の皆様ならびに運営に携わっていただきました実行委員はじめ学生の方々のご支援とご協力に、衷心より厚く御礼申し上げる次第でございます。

つきましては、今般の大会企画・運営を総括し、第4回研究大会会場校の福山市立大学に引き継ぎを行いながら、本学会のさらなる発展を期したく存じております。

最後に、第3回研究大会を支えていただきましたすべての皆様に心から感謝申し上げます、実行委員長のご挨拶とさせていただきます。

---

## 日本保育者養成教育学会 第4回研究大会 開催に向けて

第4回研究大会 実行委員長 大庭三枝 (福山市立大学)

---

オリンピックイヤーに開催される日本保育者養成教育学会第4回研究大会は、2020年3月1日(日)に広島県福山市の福山市立大学で行われます。

福山における保育者養成の歴史は半世紀を超え、前身である福山女子短期大学(私立)の創立(1963年)当初より保育科が設置されて以来、1974年福山市立女子短期大

学（福山市に設置者が変更）に引き継がれた後、四年制大学として2011年に開学した福山市立大学が受け継いでいます。広島県を中心にして西日本一円に保育者を輩出し、数多くの卒業生が保育現場でその役割を担ってきました。こうした伝統を持つ福山の地で、日本保育者養成教育学会第4回研究大会が開催される意味を、卒業生や保育関係者とともにかみしめています。

昨今では、乳幼児が巻き込まれる悲しい事故の多発、幼児教育の無償化、保育者養成の改定や再課程など、乳幼児と保育者を取り巻く社会状況は激動の渦中にあるといえます。その中でも小さき命の傍らで専門職として働く保育者を目指す学生への教育、および現職となってからも持続的な力量形成のために行われる研修について議論を深めることを目指し、大会テーマを「保育者養成教育学の構築に向けて - 持続的な保育者養成としての教育と研修 -」（仮題）として設定しました。

シンポジウムでは、保育者が研修後に現場で実行力を発揮できる研修のあり方について、研修の実践研究および保育現場の立場から話題提供をしていただき、多様な視点から実質的な研修について有意義な議論が展開されることを期待しております。

口頭発表・ポスター発表等の各プログラムでは、様々な研究や全国における特色ある実践が発表され活発な論議が行われる場として機能し、そこで得られた知見が今後の養成教育・研究に資することを願い、実行委員会一同全力で運営の任にあたっていく所

存です。第3回大会（東北福祉大学）で深化した保育者養成教育学のバトンを受け、  
新たな時代に確実にその成果をつなげていきたいという思いです。

瀬戸内海の中央に位置する福山は山海の幸に恵まれ、かつて「潮待ちの港」として栄  
え日本遺産に指定された「鞆の浦」は、映画「崖の上のポニョ」の舞台としても有名です。  
新幹線ホームからすぐ近くに築城400年を迎える城の見える街福山で、多くの方々の  
ご参加を心よりお待ちしております。

---

## 学会の現況について

日本保育者養成教育学会 副会長 高橋貴志（白百合女子大学）

---

日本保育者養成教育学会発足から3年が経過しました。

去る3月2日には、第3回研究大会が東北福祉大学仙台駅東ロキャンパスにおいて開  
催され、保育者養成に関心を持った参加者によって、多くの研究発表や活発な意見交  
換がなされました。また、『保育者養成教育研究第3号（2019年3月発刊）』も間もな  
く皆様のお手元に届く予定です。会員数は、研究大会終了後さらに増え、現在約1000  
名となっています。このように、この3年間、学会運営は順調に進んでおりますが、  
本学会が多くの会員の方々にとってさらに有益なものとなるため、学会そのものを今

後どのような方向で発展させていくべきか、学会理事会では検討を重ねているところ  
です。

その一つは、保育者養成に関する情報発信です。このニューズレターもその一つと  
考えています。研究論文集である機関誌『保育者養成教育研究』とは別に、情報誌とし  
てのニューズレターの役割は小さくありません。内容、発行時期、発行回数、発行方  
法等について、より良い形を目指していきたいと思います。

二つ目は、学術研究団体の称号を得るために、日本学術会議協力学術研究団体への  
登録手続きを進めることです。もとより、本学会が設立された経緯の中でこの点は最  
重要項目の一つでした。機関誌の発行（3巻）、研究大会の開催（3回）と、学会とし  
ての実績が積み重なりましたので、このタイミングで着手したいと考えています。

今年度中には2年ごとの役員（理事・監事）選挙が予定され、本学会も黎明期から次  
のステージに向けて動き始めます。会員の皆様におかれましては、引き続きのご支援、  
ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。